

Barium は周期律表のグループII Aに属するミネラルである。このグループからできるレメディの中心的フィーリングは依存であり、Bar-c. はそれらすべての中で最も依存的である。

Bar-c. は全面的に他人に依存し、それはほとんど身障者や精神薄弱の人のようである。

“Delusion that he walks on his knees : 膝で歩いているという妄想” “Delusion that a beloved friend is sick and dying : 愛しい友人が病になり死にかけているという妄想” といったルブリクスには、Bar-c. の不具的で依存的なフィーリングとサポートを失う事への恐れが表れている。

責任を引き受けるとか役目を全うするとかいったことに対して全く無能力であるというフィーリングがある。この無能力のフィーリングのために Bar-c. には予感的な不安感が生じる。全く優柔不断になり、代わりに物事を決めてくれる人に完全に依存してしまう。これが両面的に働く場合もある。私は、非常に自立していて他人の手助けさえする Bar-c. を見たことがある。特に家族の事になると強い責任感を示した：

“Anxious about domestic affairs : 家庭内の出来事に関して生じる不安” “Cares about domestic affairs : 家庭内のことに心を配る” “Anxiety about friends at home : 家で友人の事に不安を感じる” “Anxiety for others : 他人に対する不安感”。極端なハードワーカーであり (industrious)、非常に系統立っていて、真面目で、全てのことがちゃんとなるように心を砕く (carefulness)。その結果、仕事上や社会的地位という面で、非常に責任ある頼りにされるポジションにつくことになる。非常に秩序だっていて確実であるが、しかしイマジネーションや芸術性、創造性といったものに欠けている。しかし、時にそういったうまくやっている状態の Bar-c. でさえも優柔不断で自信喪失した状態の時期がある。“Fear of strangers : 見知らぬ人に対する恐怖”があり、それが強まってくると新しい状況やルーチンから外れた物事に向かい合う事への恐怖、特になにかの選択や決断を迫られるような状況への恐怖となるのである。どのような生活の変化に対しても抵抗を示す場合があり、たとえば仕事や住居を変えることを避けようとする。注目されることや目立つことを好まず、光り輝く靴のように人目につくものを身につけたがらない。新しいファッションを一番最後に受け入れる人々であり、服とか生活様式とか非常に保守的である。批判されることを恐れて自分の見解や意見をホイホイ述べることを避ける。

私の観察では、Bar-c. はセッション中にいちいち事細かに確認することが好きである。例えば、どこで薬を飲むのかどのように飲むのか、なにを食べるべきか、他の制限事項等々、そういった細かいことである。そしてしばしば・・・

非常に依存的であり、子供っぽい。Phatak は次のように記している：“子供というのは、責任を負ったり勤めを果たすといった役に立つようになるが遅いものだ”。Bar-c. の人は自分が依存している人を失うこと（あるいはその人になにか起こること）をひどく心配する— “A beloved friend is sick and dying : 愛している友人が病になり死にかけている” という妄想。

私は The Spirit of Homeopathy の中で隣人の死の後に関節の問題が起こってきた 35 歳の既婚の女性のケースについて言及した。彼女はその隣人に依存していて、その隣人は近所では彼女の母国語を話すただ一人の人であった。このために彼女は隣人が与えてくれていた“松葉杖・支え”を失い、そして“自分の足が切り取られている”という妄想を実現することができないために、不具の状態になるような関節炎を起こして他人に寄りかかろうとしたのだった。

この他者への依存は、特に社会的金銭的な面でみられると、Calc-sil. に近いものがある。Calc-sil. は社会的金銭的に依存を感じている。Bar-c. は、まるで身障者の人のように精神的（特に知性的面で）肉体的両方で依存を感じる。

しばしば、子供の頃、極端に内気で他人を交わることができず友人を作りにくかったという過去がある。自分が笑われているとか批判されていると感じる。しばしば子供っぽいたくさんの恐怖がみられる（“Fear in children : 子供に生じる恐怖”）。些細なことが彼らを不安にさせる：“Anxiety, trifles about : ちょっとしたことでも不安になる” “Delusion, she thinks every noise is a cry of fire and she trembles : ?” “Starts easily from noise and from fright : ノイズや驚きからすぐビクッとする”。

私が見てきた中では Bar-c. の人の多くは簡素で素朴である。どちらかというとなだめやすい。

ルブリクス

- Cares, domestic affairs, about : 家事に気を配る。
- Childish : 子供っぽい。
- Strangers, presence of, aggravates : 知らない人がいると悪化。
- Delusion, as if beloved friend is sick dying : あたかも愛していた友人が病で死にかけているという妄想。
- Delusion, walks on his knees : 膝で歩いているという妄想。
- Delusion, legs are cut off : 足が切られているという妄想。
- Delusion, laughed at, mocked, being : 笑われている、嘲笑されている妄想。
- Anxiety, others, about : 他人のことに関する不安感。
- Anxiety, trifles, about : ちょっとしたことでも不安。
- Goes off alone and weeps as if she has no friends : まるで友人がいないかのようにその場を離れて泣く。

身体症状

- Chilly patient : 寒がりの人。
- Premature old age : hairfall, baldness, loss of memory, hypertension, atherosclerosis at a young age : 成熟していない老人。若い人の抜け毛、禿げ、記憶の喪失、高血圧、動脈硬化。
- Desire, sweets : 甘い物を好む。
- History of recurrent attacks of tonsillitis : 扁桃炎を繰り返したという病歴。

—May be emaciated : 恐らく痩せている。

Phatak

—Hearing hard in old people : 老人の難聴。